

11-2. 鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 再訪 2009.9.7.



9.7. 早朝 鷹巣の病院へ定期健診に行くと言う宿の主人の車に便乗させてもらって 鷹巣へ
2000 年 9 月に一度訪れた縄文のストーンサークル 鷹巣 伊勢堂岱遺跡を再訪する。

北東の鹿角・大館の山間を流れ下ってきた米代川が鷹巣で西へ方向を変えて能代に注ぐ。この鷹巣の市街地や米代川の南の丘陵地に「秋田北空港」があり、この空港の西の米代川が南から北へ流れてきた阿仁川が合流する地点に隣接する河岸段丘の上に伊勢堂岱遺跡がある。

この空港開設の取付け道路が作られる過程でこの遺跡が発見され、今も調査が続いている。

ストーンサークルの周辺を取り囲んで、掘建て柱建物が出土し、ここで 弔いの祭りを行っていたことを明らかにした遺跡である。

世界遺産登録を目指す遺跡群のひとつとなっている今 さらに何か新しいことがわかったのか また遺跡の周辺はどうなっているのか

また、背の高い樹木に取り囲まれた静けさの中にある遺跡が印象的で、
いまも　その静けさはたもたれているのか・・・

そんな事が知りたくて 再度鷹巢伊勢堂岱遺跡を訪ねました。

伊勢堂岱遺跡の丘陵地の北端をすり抜けて 秋田内陸縦貫鉄道が走り、すぐ横の平地に「小ヶ田駅」がある。

当初 伊勢堂岱遺跡の丘陵地を西から横切って東側の丘陵にある空港へまっすぐ取り付け道路が予定されていたが、遺跡の丘陵地の下を迂回して空港へ向かう道路が完成しているほかは以前と変わらず以前訪れ

「伊勢堂堂岱遺跡のストーンサークルも まわりの森によって視界がさえぎられ、あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさの中にある。

道具のなかった時代に大規模な土木工事を施し、自分たちの祖先が集うこのような環状列石の墓を築き、折にふれ、祭りをを行い、祖先を同じくする人たちの絆を強くしていたと考えられる。このストーンサークルを中心とした祖先との絆 集落の人たちとの絆 それが「縄文人の人達の心」を知る手がかりと言われている。

誰も居ないない森の中 唯一人立っているとひょいと宇宙人が現れてくるような錯覚に陥る

2000. 9. 15. 伊勢堂岱遺跡にて

和鉄の道 「秋田・青森 縄文のストーンサークル」

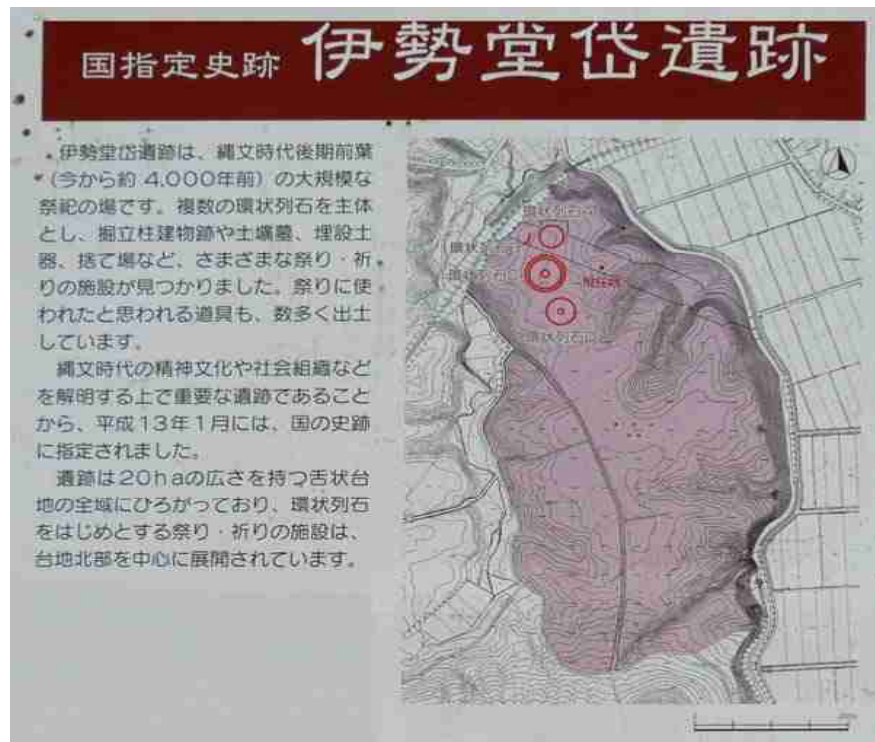
- 縄文人の心を考える これも Iron Road - 」より



た時のままにのどかな田園風景が広がっている。

遺跡の中も高い樹木に包まれた静かな環境が維持されて以前と変わらず、気持ちの安らぐ空間。唯一箇所北側の樹木がきれいに切り払われ、米代川から鷹巣の街そしてその後ろに縄文人も信仰の対象としたかも知れぬ鷹巣の象徴 白神山地の駒ヶ岳・田代岳が見渡せるように整備が進んでいました。私には 以前の高い森に包まれている方が好きですが、縄文時代はどうだったのでしょうか・・・

世界遺産登録候補の名の下に あまり遺跡の状態を変化させると僕はかえって「縄文をイメージすること」の妨げになると思うのですが・・・



台地の北側部にある環状列石 A 2009.9.7



台地の南側にある勘定列石 C



台地の南側最奥部にある環状列石 D 2009.9.7



環状列石 C を取り囲む掘立柱建物群跡

【参考】 和鉄の道 「秋田・青森 縄文のストーンサークル - 縄文人の心を考える これも Iron Road - 」

<https://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlaa07.pdf>

鷹巣 伊勢堂岱遺跡を9年ぶりに再訪 2009.9.7.



「伊勢堂堂岱遺跡のストーンサークルも まわりの森によって視界がさえぎられ、
あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさ の中にある。

道具のなかった時代に大規模な土木工事を施し、
自分たちの祖先が 集うこのような環状列石の墓を築き、
折にふれ、祭りを行い、祖先を同じくする人たちの絆を強くしていたと考えられる。

このストーンサークルを中心とした祖先との絆 集落の人たちとの絆
それが「縄文人の人達の心」を知る手がかりと言われている。

誰も居ない森の中 唯一人立っていると
ひょいと宇宙人が現れてくるような錯覚に陥る 」

2000.9.15. 伊勢堂岱遺跡にて

和鉄の道「秋田・青森 縄文のストーンサークル
- 縄文人の心を考える これもIron Road? - 」より

米代川の河岸台地に近接して出土した4つの環状列石

秋田県鷹巣 伊勢堂岱遺跡 2009.9.7.











北秋田市鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 周辺図







国指定史跡 伊勢堂岱遺跡



環状列石A



配石遺構



配石遺構

伊勢堂岱遺跡は、縄文時代前期前半（約4000年前）の大規模な祭祀の場です。複数の環状列石を主体とし、配石柱建物跡や土溝跡、埴輪土版、漆で埴など、さまざまな痕跡・所りの施設が現れました。祭祀に使われたと思われる道具も、数多く出土しています。

縄文時代の精神文化や社会組織などを解明する上で重要な遺跡であることから、平成13年1月には、国の史跡に指定されました。

遺跡は20mほどの広さを持つ赤状台地の全周にひろがっており、環状列石をはじめとする祭壇・祈りの施設は、台地北東を中心に展開されています。



遺跡の範囲と環状列石の位置

4つの環状列石が確認された範囲に示されています。



環状列石C

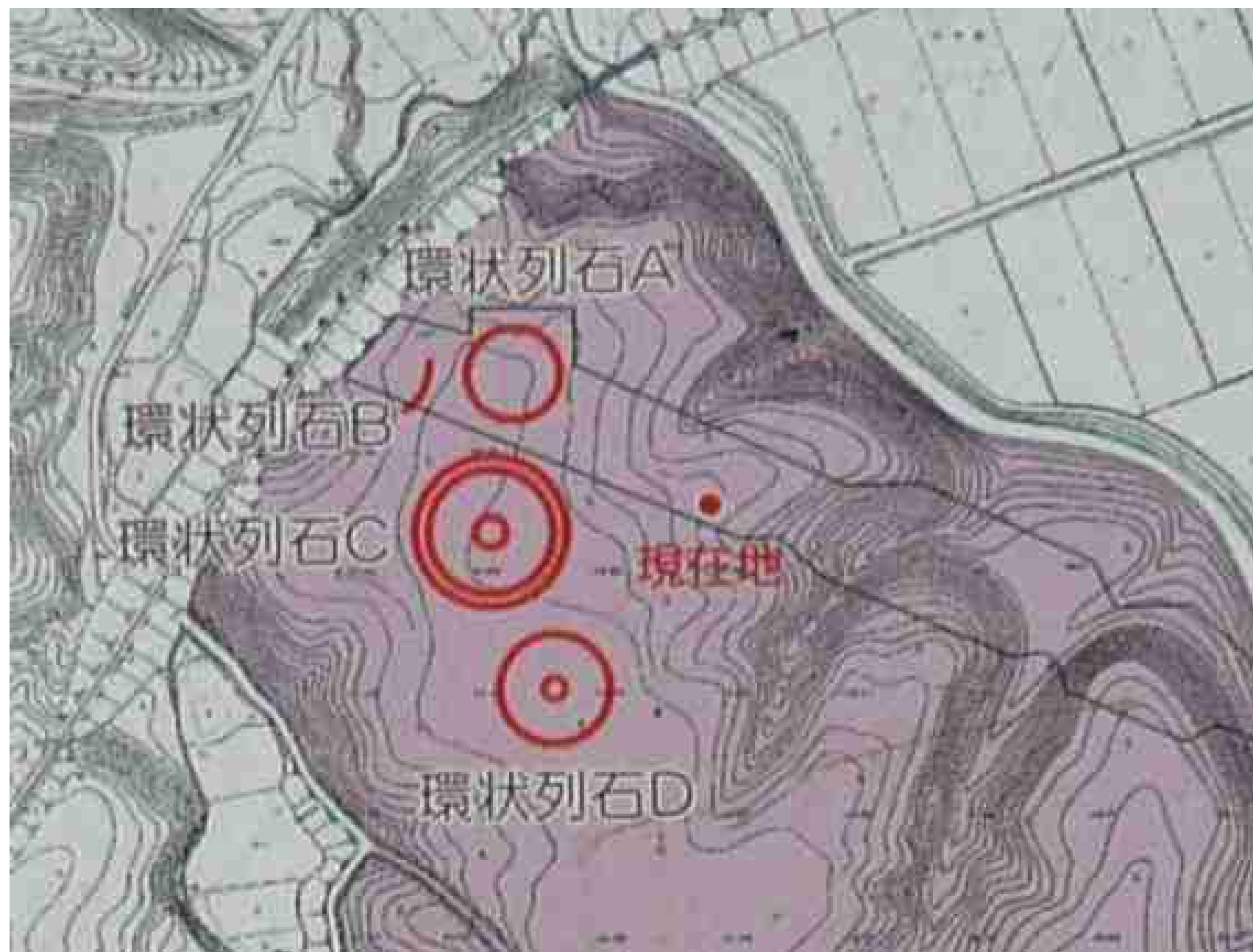


環状列石跡



土溝跡







台地の 中央部より西側 右 環状列石A 左 環状列石 C & D 2009.9.7.



台地の 中央部より東側 左 環状列石A 右 環状列石 C & D 2009.9.7.



環状列石 A



環状列石Cを取り囲む掘立住居群跡



環状列石 C (左半円)



環状列石 D



台地の北側部にある環状列石 A

南側からながめた環状列石 A 樹木が切られ、北側がオープンになっていた 2009.9.7.



台地の南側最奥部にある環状列石 D 2009.9.7.



環状列石 A の北端からながめた米代川(中央 緑の帯)と鷹巣の市街地
その後ろにういてみえる白神山地 駒ヶ岳と田代岳



台地の北側部にある環状列石 A

い せ どう たい い せ き 伊勢堂岱遺跡



▲環状列石A



▲環状列石C



▲竪立柱建物群



▲遺跡の範囲

※赤線の内側が一般公開部分



▲沢 (捨て堀)



▲石組



▲環状列石

伊勢堂岱遺跡は、大館能代空港のアクセス道路予定地で発見されました。平成7年と8年に、秋田県埋蔵文化財センターにより道路建設予定地約7,000m²の発掘調査が行なわれ、縄文時代後期前半（今から4,000年前頃）の環状列石をはじめ、多くの土壌（お墓）や建物跡が見つかりました。祭祀にかかわる遺物も数多く出土しており、「お墓」とあると同時に「祭り」や「祈り」をとり行なう大規模な葬祭の場であったと考えられています。

縄文時代の墓制や精神世界、社会構造などを解明する上で大きな手がかりとなる遺跡であることがわかったため、秋田県では平成8年11月にアクセス道路のルート変更と、遺跡の現地保存を決定しました。

これらの経緯を踏まえ、平成9年度からは鷹巣町教育委員会が主体となり、遺跡全体の範囲を確認するための発掘調査を行なっています。遺跡の範囲は台地全体に及んでおり、12,000m²ものひろがりを持つと推定されています。



環状列石の周囲に掘建柱建物群出土跡

奥に環状列石A 左 環状列石 C









米代川の河岸台地に近接して出土した4つの環状列石
秋田県産業 伊勢堂信濃師 2009.9.7.



